http://decfamily.p1.bindsite.jp/2017/

We 25R

No.247　17/07/07

七夕の短冊に

今日は七夕である。九州は大変な大雨に見舞われたようだが、東京の今夜の天気はまずまずといったところか。

「降れば土砂降り」（問：英語に直しなさい→答：It never rains but it pours.）ということわざみたいなものがあり、「不運は続くものだ」といった意味を表す。同様のことわざには、「泣きっ面に蜂」とか「弱り目に祟り目」なんてのもあるが、ここのところ日本列島をおそっている自然災害は、例えば、今回の九州の大雨のニュース映像などを見ていると感じられるのだが、以前とは威力が違うような印象である。温暖化の影響がこんなところにも出ているのだろうか？　とするなら、アメリカ政府にはもう少し理性的な政策をお願いしたいところだ。日本政府としても、環境問題に関しては他国と足並みを揃えていくよう求めていかなければならないのではないだろうか。それは内政干渉でもなんでもない、地球規模の問題なのだから。

＊

ところで、昨日はいきなり「源氏の五十余巻」（「更級日記」）に戻ったりして、ちょっとビックリしたかも知れないが、ビックリしたのは私の方で、「先生、「源氏の五十余巻」は期末考査の範囲に入るのですか？」と質問して、私が「源氏の五十余巻」の後半をやり残していたことを思い出させてくれる人がいたのである。彼（彼女）は、すでに期末考査に向けて復習を始めたというわけだ。いやはや大したものである。

ちなみに、他クラスだが、私が教室に入ると毎時間「プログレス古文（漢文）」をやっている人がいる。単語テストの日は単語テストの勉強をしている時もあるのだが、授業の始まる前の10分休みに問題集を開き、少しずつ読み進めているのだそうだ。これまた大したものである。

さすがに３年生ともなると、現役で合格するような人は、やはり休み時間も有効に使っている。例えば、休み時間に友だちと盛り上がって授業中に寝ているようなアホ生徒とは違い、休み時間にちょっとでも「眠る」ことで、授業をしっかり受ける体制を作ったりしている人が何人もいる。

まあ、２年生の君たちにとっては、星陵祭や部活などの連絡もあるだろうし、クラスや他クラスの友だちと交流を深めることだって大切な高校生活の一部だから、そうオチオチ寝ているというわけにも行かないのかも知れないが、そういう時間の使い方も含め、もう一度、すき間時間の使い方を工夫してみることも必要だろう。

＊

自分一人で勉強するよりも、先生に習った方がずっと効率的である。そんなことはわかりきったことだろう。それなのに、授業中に意識がとんでいるようでは、とても明るい未来など見通せない。居眠りを当たり前だと思ってはいけないし、そういう雰囲気がクラスの中にあってもダメである。「授業がつまらないんだもの…」というのは理由にならない。百歩譲ってつまらないとしても、授業中起きていなければならないことに変わりはない。

ということで、何人かの諸君の七夕の短冊は「授業中に起きていられる自分になる」でしょうかね？